

## 学生の漢詩理解について

国語教育講座・太田 亨

本授業の目的は、漢詩を日中の工具書を利用して読解し、作者の真意を可能な限り理解することである。

授業の概要であるが、まず中国文学史の概説を説明した上で、唐代の詩について解説した。その上で唐代の優れた詩を集めたものが『三体詩』であり、授業は教材として『三体詩』を用い、演習形式で進めて行くことを伝えた。演習では各自が一首の詩を担当し、中国の注釈書の注釈と、それをもとに製した日本禅僧の注釈を読み、両者を比較するように指示した。また日本語現代語訳が載っている本を参考にしても良いことにした。

始まった当初は現代語に頼ることが多く、漢文を理解しようとする姿勢が全く欠けていた。しかし、回を重ねると、読みやすい日本禅僧の注釈から読み始め、授業の終わり頃になると、中国注釈も読むようになり両者の比較を行うようになった。これから学生がこの授業を受けて何を感じ、何を考えていたのかをアンケートを通じて考察する。なお授業を受けた学生は、3回生9名であるが、2名は全欠席、1名はアンケート拒否により、6名に対して実施した。

質問事項は以下の通りである。

、授業には興味を持って臨むことができましたか。（1 臨むことができた 2 まあまあできた 3 ふつう 4 あまりできなかった 5 全然できなかった）

、授業における教員の態度（言動や学生に対する対応等）は適切でしたか。（1 大変適切だった 2 まあまあ適切だった 3 ふつう 4 あまり適切ではなかった 5 全く適切ではなかった）

、教員の説明はよく分かりましたか。（1 よく分かった 2 まあまあ分かった 3 ふつう 4 あまり分からなかった 5 全く分からなかった）

、この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。（1 よく感じられた 2 まあまあ感じられた 3 ふつう 4 あまり感じなかった 5 全く感じなかった）

、授業で行う課題の量は適切でしたか。（1 多すぎる 2 多い 3 ふつう 4 少ない 5 少なすぎる）

、中国文学に対する興味は深まりましたか。（1 深まった 2 少し深まった 3 深まらなかった）

、漢詩に対する理解は深まりましたか。（1 深まった 2 少し深まった 3 深まらなかった）

、漢詩の魅力についてあなたの考えることを自由に書いて下さい。

、中国と日本の漢詩解釈について、あなたの考えることを自由に書いて下さい。

、漢詩についてあなたが疑問に思っていること、またはこれからしてみたい、学んでみたいことを自由に書いて下さい。

、中国文学について、あなたが今思っていること、考えていることを自由に書いて下さい。

、授業に対するあなたの意見・感想を自由に書いて下さい。

から までの結果は次の表ようになる。

	1	2	3	4	5
	三	二	一		
	六				
	五	一			
	六				
	六				

	1	2	3
	四	二	
	四	二	

（縦の列は質問事項、横の列は回答番号、漢数字は人数を指す）

この表から授業の教材の難易度やその説明、授業中の教師の態度はある程度学生の意に沿っていたと言える。

の漢詩の魅力について、学生は次のように考えている。

- ・作者の製作意図と読者が感じ取る解釈には違いがあって、同じ漢詩でも色々な形に変化するんだと思った。
  - ・ただ美しい風景や酒の席でのことをうたっているだけなのかなと思いきや、その裏には作者の思いや故事などがもりこまれていて、ひとつの詩だけでもよみどころがたくさんある。
  - ・日本の和歌とは違った趣きがあり、興味を持って読むことができた。古代の有名な詩人の考えを知り、自分の考えと比較することで共感したりその通りだと思えることがたくさんあった。また、自分を振り返ったりするきっかけとなり、人生についても少し考えることができた。
  - ・あらゆる資料を使って訳を探究できる。
  - ・凄く昔に作られた詩なのに、考え方や内容に今の私たちに通じるものがある。
  - ・漢詩の作られた時代の文化や、それ以前の文化、それらの文化の中で生きた当時の人々の気持ちを知ることができる。
- 一句一句の解釈を丁寧に読解したため、それぞれが独自の受け止め方をしている。これまで、強制的に一通りの解釈しか教えられておらず、実際に本人が読解したのは初めてであり、漢詩の奥深さを実感してくれたようである。

の中国と日本の漢詩解釈について、学生は次のように考えている。

- ・日本の人々が多くの注釈書を出して、真剣に漢詩に取り組んでいることに驚いた。
- ・現代日本語訳は読んだままに解釈していて、作者の背景や裏の意味まで考えていないと感じた。
- ・生活している環境が違うのだから、それぞれに個性があって当然だと思った。中国の方がスケールが大きくて、自然の大きさを感じる。
- ・文化という思想が多少異なるので、解釈も微妙に違うと思った。中国では人間の偉さに比べて自然の雄大さ、普遍性が強く述べられていると感じた。
- ・中国の方が資料がたくさんありそうなので、多重多様な解釈がありそう。日本のものは日本古典文学の流れの中にあるので、ふるさと感じやすい。
- ・中国で書かれた漢詩を日本の学者や僧がすさまじい努力で研究し、注釈を作っていて、今回は授業でそれを知ることができた。中国での解釈は異なる部分もあって面白い。今まで受けてきた授業では受けたことがないものだった。

日本人の手による注釈書も読解したため、中国人のものの見方・考え方をより深く実感したようである。また古の日本人が中国文化に憧れを抱き、自身の中に取り込んでいたことが分かり、中国との関わりの深さを改めて感じ取ってくれている。

の漢詩の疑問について、学生は次のように考えている。

- ・漢文を作ってみたい。
- ・今まで習ってきた詩は、世を憐れとする詩が多かったのだから、詩が作られた当時は生きにくい世の中だったのかと思った。実際はどのような世の中だったのか知りたい。
- ・結局漢詩に込められている真意は作者本人にしかわからないのか。わからないこそ読むのが面白い。
- ・漢詩は庶民は詠わなかったのか。学校教育において、中国の子どもたちは漢詩をどのように鑑賞しているのか。女性が詠んだ詩を見たことないがなぜか。
- ・日本の俳句もそうだが、なぜあのリズムに行き着いたのか。
- ・漢詩の勉強はあらゆる資料を使って解釈していくという活動以外に何かあるのか。また、教科書の漢詩をどのように扱っていいのか。質の高い国語教育を実現できるのか。

学生は更に深く漢詩を理解しようとしている。学生の要望に応えるためにも、音韻面・作詩背景・指導方法等の教授については今後の課題としたい。

の中国文学について、学生は次のように考えている。

- ・中国文学について、中国古典文学については

非常に面白いと思った。その中で中国思想との境界線のある程度知りたいと思った。また中国の現代文学についてあまり知らない。ただ昔のように漢文として、中国の現代文学を取り入れることはないのかなあと少し思った。

- ・中国文学といえば、漢詩か三国志・水滸伝のような長編小説のイメージしかなく、すごく取り扱いにくいイメージがあった。今回は漢詩の授業だったが、注釈も比較的読みやすいもので、漢詩を読むと言うことが身近になった。
- ・中国文学は日本の文学と違ってテーマが重い作品が多いような気がする。中国人が文学で表そうとする内容が日本文学と印象が違う点面白かった。
- ・中国文学は自分と関わりが薄いので、読んでみれば面白いと思う。日本と違う視点で物事が見れそう。
- ・中国文学というと、何となく男の世界のような気がする。柔らかさというよりは強さとか真っ直ぐさという感じで、曲がったことが嫌いという感じがする。戦いとかお酒とか友との別れに涙するとか、そういう男の世界を少し教えてくれている気がする。
- ・小さい頃、中国史の漫画を読んでいたのだから、どうしても三国志や史記に興味がある。

学生は、漢詩以外にも歴史小説などに興味を抱いている。今後は漢詩以外の教材についても授業で扱ってみたい。

の授業に対する意見・感想として、学生は次のように述べている。

- ・全体的に知識不足だったので勉強になった。
- ・授業は早くも遅くもなく丁度良いスピードで、内容もよくわかった。
- ・初めて漢文についてこんなに詳しく学び、詩を通して作者が伝えたい思いについて深く考えることができて面白かった。
- ・分かりやすく、興味の無かった漢詩におもしろさを感じた。
- ・もっと人数がいたらにぎやかだったのだろうが、丁度良い人数だったかもしれない。最初よりは漢詩が楽しく感じられた。
- ・始めはさっぱり分からなかったものが、調べたり、注釈書を読んでいく内にだんだんと分かるようになり楽しかった。演習形式は大変だけど、その分楽しかった。

学生は大なり小なり漢詩から色々と学び、感じ取ってくれている。総じて、本授業の目的はある程度達成できたと言えるのではあるまいか。

今回は授業において漢詩を取り扱った。十月から赴任したこともあり、学生の知識や能力が分からず、暗中模索状態であり、こちらの準備不足の点多々ある。今後は映像を取り入れるなどして、更に深い読解力を養うことができる工夫をし、漢詩以外の教材についても取り扱っていきたいと考えている。